



かのうひさよし か じく 加納久宜掛け軸

(一宮町教育委員会所蔵)

平成31年(2019)3月 寄贈

「道通天地有形外 思入風雲變態中

子爵 加納久宜書」

かのうひさよし (1848～1919) は最後の 一宮藩主で、

鹿児島県知事などを歴任したのち、晩年には郷里・

一宮に戻り一宮町長として活躍した人物です。

書かれた年代は不明ですが、原文は中国の北宋

時代の儒学者・程明道 (1032～85) の漢詩「秋日

偶成」の一文です。

「一定の道は天地の間に有形無形を問わずに通

じている。このように考えるときに風に流れる雲

と一体となって悠々たる気分になることができ

る。」という意味で、まさに一宮町の風景を思っ

て書いたように思えます (実際はどうだったかわかり

ませんが)。

